

語註・典故・作詩メモ

爾後・・その後。
 凄風・・すぎまじい風。すごい風。
 喬木・・高い木。年数を経た大きな木。
 蘗芽・・ひこばえ。木の切り株や根元から生えた芽。

その他のメモ

結句		転句		承句		起句		詩題	
根	○	爾	●	銀	○	幾	●		鎌臺懷古
株	○	後	●	杏	●	回	○		
不	●	凄	○	樹	●	曾	○		
朽	●	風	○	枝	○	訪	●		
蘗	●	倒	●	靈	○	八	●		
芽	○	喬	○	氣	●	幡	○	東韻	
隆	◎	木	●	充	◎	宮	◎		

読み下し文

根株 <small>こんしゆ</small> は朽 <small>く</small> ちず 蘗芽 <small>げつが</small> 隆 <small>さか</small> んなり	爾後 <small>じしご</small> 凄風 <small>せいかう</small> 喬木 <small>きやうぼく</small> を倒 <small>たお</small> すも	銀杏 <small>いちじやう</small> の樹枝 <small>じゆし</small> に 靈氣 <small>れいき</small> 充 <small>み</small> つ	幾回 <small>いくかい</small> か 曾 <small>かつ</small> て訪 <small>たず</small> ねし 八幡宮 <small>はちまんぐう</small>	鎌臺 <small>れんたい</small> 懷古 <small>かいこ</small>
--	---	--	--	--

神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

(七言絶句)

作詩日	平仄式	平起式	名前
令和四年八月三十日			牛山 知彦

語註・典故・作詩メモ			
課題詩 NHK大河ドラマ「鎌倉殿の十三人」を見ていて、頼朝一族から北条一族への政権略奪の歴史ドラマを興味深く見ている。			

結句	転句	承句	起句	詩題
莊	群	政	霸	鎌臺懷古
麗	雄	権	業	
鶴	競	略	百	魚韻
陵	秀	奪	年	
遺	古	北	紛	魚韻
廟	都	条	擾	
虚	裡	狙	圖	

神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

(七言絶句)

#			
その他のメモ			

莊麗鶴陵遺構虚し	群雄競秀せし古都の裡	政権略奪せんと北条狙う	霸業百年紛擾図る	鎌臺懷古
----------	------------	-------------	----------	------

作詩日	平仄式	平起式	名前
令和四年九月			宇野次郎

神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

(七言絶句)

結句		転句		承句		起句		詩題
興	○	源	○	閑	○	鎌	○	鎌台懐古
亡	○	氏	●	歩	●	台	○	
懐	○	頼	○	旧	●	九	●	尤韻
古	●	朝	○	都	○	月	●	
暮	●	名	○	尋	○	已	●	尤韻
鐘	○	不	●	寺	●	新	○	
幽	◎	朽	●	楼	◎	秋	◎	

語註・典故・作詩メモ

源頼朝が鎌倉の地に幕府を築いてから、様々な興亡が日本の歴史に繰り広げられてきた。鎌倉は現在観光地として名高く、数多くの寺社も点在している。

結句の「興亡懐古」は歴史の興亡を思い巡らす意味で使用したが、懐古が個人の体験・経験のみで使われるのであれば適切ではないので、想像・想憶などが適切か。

その他のメモ

読み下し文

鎌台の九月 已に新秋
れんだい すで しんしゅう

鎌台懐古
れんだいかいこ

旧都を閑歩し 寺楼を尋ぬ
きゅうと かんぽ じろう たず

源氏頼朝の名は朽ちず
げんじよりとも な く

興亡を懐古すれば 暮鐘幽なり
こうぼう かいこ ぼしやうゆう

作詩日	平仄式	名前
令和四年九月	平起式	高橋 幸雄

語註・典故・作詩メモ				

結句	転句	承句	起句	詩題
盛 ○	今 ○	寺 ●	武 ●	
衰 ○	日 ●	社 ●	人 ○	鎌臺懷古
千 ○	街 ○	多 ○	治 ●	
歳 ●	衢 ○	多 ○	国 ●	
遠 ●	賑 ●	集 ●	倚 ●	
懐 ○	遊 ○	学 ●	鎌 ○	灰韻
徊 ◎	子 ●	才 ◎	臺 ◎	

神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

(七言絶句)

その他のメモ				

読み下し文				
盛衰 千歳 遠懐 さまよう	今日 街衢に 遊子賑わう	寺社 多多 学才集う	武人の治国 鎌臺に倚る	鎌臺懷古

作詩日	平仄式	R 4・8・3 1	名前
	平起式		武田 一郎

語註・典故・作詩メモ	
○三公・源頼朝、頼家、実朝の三公	○斃死・殺される
○金槐・金槐和歌集	○実朝の私撰和歌集、万葉風の歌多し

結句	転句	承句	起句	詩題
金 ○	私 ○	斃 ●	源 ○	
槐 ○	撰 ●	死 ●	家 ○	鎌台回顧、寄三代將軍実朝公
玉 ●	歌 ○	実 ●	悲 ○	
韻 ●	風 ○	朝 ○	運 ●	
令 ●	如 ○	樹 ●	及 ●	東韻
名 ○	萬 ●	陰 ●	三 ○	
崇	葉	中	公	

神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

(七言絶句)

その他のメモ

読み下し文			
鎌台回顧、三代將軍実朝公に寄す	源家の悲運は三公に及べり	斃死す実朝樹陰の中	私撰の歌風は万葉の如くにして
金槐の玉韻は令名崇し			

作詩日	平仄式	平起式	名前
令和四年八月十八日			平賀康雄

語註・典故・作詩メモ				結句		転句		承句		起句		詩題	
				鬼	●	難	●	北	●	縹	●	七里浜懐古	
				哭	●	舟	○	望	○	紗	●		
				啾	○	欲	●	富	●	白	●		
				啾	○	弔	●	嶽	●	沙	○		
				波	○	空	○	暮	●	潮	○	庚韻	
				浪	●	懐	○	雲	○	面	●		
				生	◎	昔	●	横	◎	平	◎		

神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

(七言絶句)

その他のメモ			

居			
詩題の読み			
縹 <small>ひょうびょう</small> 紗 <small>さ</small> たる白 <small>はくさ</small> 沙 <small>さ</small> に潮 <small>ちよ</small> 面 <small>めん</small> 平 <small>たいら</small> らかなり			
北 <small>キタ</small> のかた富 <small>フガク</small> 嶽 <small>ノソ</small> を望 <small>ノゾ</small> めば暮 <small>ボウ</small> 雲 <small>ウン</small> 横 <small>ヨコ</small> たはる			
難 <small>なんしゆう</small> 舟 <small>とむら</small> 弔 <small>はんと</small> として空 <small>むな</small> しく昔 <small>せき</small> を懐 <small>おぼ</small> へば			
鬼 <small>キコク</small> 哭 <small>シユウ</small> 々 <small>ツツ</small> として波 <small>ハロウ</small> 浪 <small>ウ</small> 生 <small>シヨウ</small> ず			

作詩日	平仄式	仄起式	名前
令和四年九月六日			古川 彌

語註・典故・作詩メモ	
大達 大道り	表表 すぐれていて目に付く様子
神功 計り知れないすぐれた造物	

結句		転句		承句		起句		詩題
萬	○	表	●	貫	●	千	○	鎌台懐古 東韻
人	○	表	●	縦	●	年	○	
憶	●	鶴	●	大	○	霸	●	
昔	●	陵	○	達	○	跡	●	
感	●	遺	○	今	○	一	●	
神	○	廟	●	古	●	何	○	
功	◎	肅	●	同	◎	工	◎	

神漢連 九詩期会【詩箋】

(七言絶句)

その他のメモ	

読み下し文	
万人憶う昔 神功を感ず	表々の鶴陵 遺廟肅たり
縦に貫く大達 今古同じ	
千年の霸跡 一に何ぞ工なる	
鎌台懐古	

作詩日	平仄式
令和4年8月	仄起式
	名前
令和4年9月提出	松本祐輔

語註・典故・作詩メモ		結句		転句		承句		起句		詩題
		今 ○		有 ●		此 ●		登 ○		鎌 臺 懷 古
		唯 ○		史 ●		地 ●		高 ○		
		一 ●		初 ○		曾 ○		眺 ●		
		鳥 ●		征 ○		経 ○		望 ●		
		轉 ●		天 ○		起 ●		緑 ●		
		回 ○		下 ●		武 ●		陰 ○		
		頻 ◎		政 ●		人 ◎		新 ◎		真 韻

神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

(七言絶句)

その他のメモ

文 下 し 文 読 み				
今 <small>いま</small> は唯 <small>ただ</small> 一 <small>いつ</small> 鳥 <small>ちよう</small> の轉 <small>てん</small> 回 <small>がひ</small> 頻 <small>しき</small> りなり	有 <small>ゆう</small> 史 <small>し</small> 初 <small>はじ</small> めて征 <small>せい</small> す天 <small>てん</small> 下 <small>か</small> の政 <small>まつりごと</small>	此 <small>こ</small> の地 <small>ち</small> か <small>つ</small> て武 <small>ぶ</small> 人 <small>じん</small> 起 <small>た</small> ち	高 <small>たか</small> き <small>に</small> 登 <small>のぼ</small> り眺 <small>ちよう</small> 望 <small>ぼう</small> す <small>ら</small> ば緑 <small>りよく</small> 陰 <small>いん</small> 新 <small>あらた</small> なり	鎌 <small>れん</small> 臺 <small>だい</small> 懷 <small>かい</small> 古 <small>こ</small>

作詩日	平仄式	名前
令和四年八月十四日	平起式	三浦昭二

神漢連 九詩期会 詩箋 【七言絶句】

語註・典故・作詩メモ				結句	転句	承句	起句	詩題
績・・・功績 晶晶・・・キラキラ光り輝くさま 安寧・・・平和で安らかなこと				朝 ○	來 ○	國 ●	鎌 ○	鎌台懷古（鎌倉幕府）
				廷 ○	襲 ●	政 ●	倉 ○	
				統 ●	蒙 ○	安 ○	幕 ●	（陽韻）
				治 ●	軍 ○	寧 ○	府 ●	
				下 ●	為 ○	大 ●	績 ●	
				難 ○	擊 ●	厭 ●	晶 ○	
				成 ◎	退 ●	争 ◎	晶 ◎	

その他のメモ			
朝廷が政權を担当していたら、二度にわたる蒙古軍の來襲を阻止できたかと考え作詞した。			

読み下し文				作詩日	名前	
朝廷 <small>ちやうてい</small> の統治 <small>とうち</small> 下 <small>か</small> では成り難 <small>がた</small> し	來襲 <small>らいしゆう</small> する蒙軍 <small>もうぐん</small> の擊退 <small>げきたい</small> を為 <small>な</small> す	国政安寧 <small>こくせいあんねい</small> し 大 <small>おほ</small> いに争 <small>あ</small> いを厭 <small>いと</small> う	鎌倉幕府 <small>かまくらぼくふ</small> の績 <small>せき</small> 晶晶 <small>しよるりょう</small> たり	鎌台懷古 <small>かま</small> （鎌倉幕府）		令和四年 九月八日

語註・典故・作詩メモ	
鐘磬——みぎわ。ほとり 鐘磬——玉や石で形づくった板、ともに打楽器 関牆——「詩経」のなかに「兄弟関于牆」とあり、兄弟が かきをせめぐ（内輪もめをする） 幾浮沈——だれ漢——頁102 鐘磬音——だれ漢より頁87	関牆 鎌府 幾浮沈

結句	転句	承句	起句	詩題
●	●	●	○	鎌台懐古
○	●	●	○	
○	○	○	○	侵韻
●	○	○	●	
●	○	○	●	
○	●	●	○	
◎	●	◎	◎	

神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

(七言絶句)

その他のメモ	
起句と結句を再考 反起式——先韻 鎌府関牆華表前 當年想得磬鐘傳 蓋源氏下臣愁臆 治亂興亡思又玄	華表前——鳥居の前 誰漢よりp87 磬鐘傳——だれ漢より頁87 愁い臆するを 心の底に愁いを持つ 思又玄——思い又玄なり だれ漢より頁87

関牆の鎌府幾浮沈	否武家の魂 愁い臆に満つ	想い得たり当年鐘磬の音	風光明媚海の渾	鎌台懐古
----------	--------------	-------------	---------	------

作詩日	平仄式	平起式	名前
令和四年九月			諸星暢義
			第一稿

神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

(七言絶句)

語註・典故・作詩メモ	結句	転句	承句	起句	詩題
	遠 ● 望 ○ 富 ● 嶽 ● 暮 ● 潮 ○ 平 ◎	霸 ● 業 ● 千 ○ 年 ○ 滄 ○ 海 ● 浦 ●	飲 ● 涙 ● 送 ● 書 ○ 離 ● 叛 ● 兄 ◎	九 ○ 郎 ○ 被 ● 讒 ● 不 ● 能 ○ 行 ◎	腰越懷古 庚韻

○九郎 源義経 ○兄 頼朝
○書 腰越状(元暦2年5月24日1185年6月23日)
○千年 長い年月 (実際には腰越状から837年経過)
転句 「鶴去千年」 村上仏山「相武紀游」漢詩八十景

作詩日	平仄式	名前
2022年9月7日	平起式	山口 幸雄

その他のメモ
<p>義経は落とし入れられて、鎌倉へ入ることができなかった腰越状を送ったが、遂に頼朝に叛することになった。覇を競ったときから長い時がたった蒼い海の浦辺は遠く富士山が見え、暮れの潮はおだやかに流れている。</p>

腰越懷古	九郎讒せられて 行む能はず	涙を飲んで書を送り 兄に離叛す	覇業千年 滄海の浦	遠く富士山を望み 暮潮平らかなり
------	---------------	-----------------	-----------	------------------